

# Koku Sun

Value Interview 座談会

## ハートチーム

最適な治療法の選択を  
助けるチーム医療



2017 SPRING  
VOL

27

### 健康講座

MICS（ミックス）って知ってますか？

### 部門紹介

ゲノム医療部門の発足

### 最新医療

海外から希望を求めて：メディカルツーリズムの夜明け  
閉塞性動脈硬化症におけるアジア地域医師との連携

減塩食のレシピ 連携医紹介

### ● 国立循環器病研究センター理念

私たちは、国民の健康と幸福のため、高度専門医療研究センターとして循環器疾患の究明と制圧に挑みます。

### ● 基本方針

- 1 循環器病のモデル医療や世界の先端に立つ高度先駆的医療を提供します。
- 2 透明性と高い倫理性に基づいた安全で質の高い医療を実現します。
- 3 研究所と病院が一体となって循環器病の最先端の研究を推進します。
- 4 循環器病医療にかかわるさまざまな専門家とリーダーを育成します。
- 5 全職員が誇りとやりがいを持って働ける環境づくりを実践します。

Value Interview 12 「座談会」

ハートチーム

最高水準の知識と技術を結集し 患者さんに一番適した治療を提供します



冠疾患科 部長 野口 暉夫

心臓外科 部長 藤田 知之

心不全科 部長 安斉 俊久

でやっています。良かったと思います。他の施設では、例えば感染性心内膜症の患者さんにすぐ手術をしてほしい時でも、外科の先生が少し躊躇されて「抗生剤治療を優先して」と言われることが間々あるのですが、国循の先生方はそのような時でも積極的な対応をしてくださいますし、万が一の場合はいつでも助けて下さるのが本当に心強いです。外科医と内科医のコミュニケーションが取れ、いつでも外科の先生がバックアップして下さるのが国循ハートチームの強みだと思います。

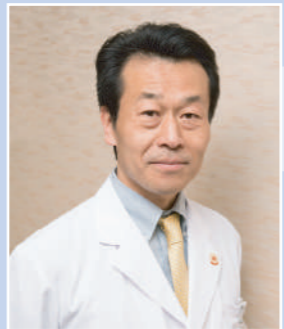
イントで探り当てるのは得意です。患者さんに最適な治療法の選択というだけでなく、内科医が処置部分を的確に示すことで外科医の持つ技術を最大限引き出すことによる治療成績の向上も目指せると思います。

い施設も多いのではないのでしょうか。その点、国循では一緒に治療を行うことで普段見られない外科の手術を内科の若手医師が見られるので、教育という面で非常に恵まれた場所だと思います。

内科と外科が補完しあうことで患者さんに最高の治療を目指す



野口 暉夫 / 冠疾患科 部長



安斉 俊久 / 心不全科 部長



藤田 知之 / 心臓外科 部長

部門紹介

# ゲノム医療部門の発足

ゲノム医療部門長 細田 公則

ゲノム医療部門遺伝子検査室長 孫 徹

ゲノムとは、遺伝子「gene」と、すべてを意味する「-ome」を合わせた造語で、遺伝情報全体を意味しており、ゲノム情報は、いわば、生命の設計図です。大半の病気はその人自身のゲノム情報と病原体、環境などの外からの影響（環境因子）の両者が影響し合って生じます。近年のゲノム解析技術の著しい進歩に伴い、個人のゲノム情報に基づいて個人の体質や病状に適した、より効果的・効率的な疾患の診断、治療、予防を行う「ゲノム医療」が発展しつつあります。

国立循環器病研究センターでは、結合織病（マルファン症候群等）、遺伝性不整脈、家族性高コレステロール症などを中心に各診療科、遺伝子検査室、臨床遺伝相談室などによりゲノム医療に取り組んできました。これらを発展させるとともに、その他の循環器領域の難病・希少疾患はもちろんのこと、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病、脂質異常症など生活習慣病診療・予防に対してもゲノム医療を推進する事も視野に入れて、平成 29 年 4 月から、診療科横断的な組織として「ゲノム医療部門」が発足

する事になりました。ゲノム医療の分野そのものが発展途上であり、その基盤となる研究も日々進歩していますので、ゲノム医療部門は各診療科、研究所、バイオバンク、創薬オミックス解析センターなどと協調しながら、ゲノム医療の体制を整備し、発展させて行きます。センターの内外の皆様のご支援、御協力をお願い申し上げます。

現段階での以下のゲノム医療の外来が引き続き各科で行われます。

- 遺伝性不整脈診察室（相庭医長）  
第4金曜午前
- 結合織病診察室（柳生医師）  
木曜午前
- 家族性高コレステロール血症診察室  
（斯波研究所部長・小倉研究所室長）  
金曜午前・午後 月曜午前・午後

外来受診申込や紹介には、国立循環器病研究センター病院ホームページの「受診する」を御覧ください。



健康講座

一般的に心臓血管外科の手術では、胸骨正中切開という、胸の真ん中に約 20~25cm ほどの傷が入るアプローチで行われます。最近では、病気の種類によっては、より小さな傷で心臓手術をすることが可能となってきました。また、ロボットを用いて手術をしたり、カテーテルで弁置換をおこなったり、人工心臓という機械を用いずに手術する方法も開発されてきています。このように患者さんにやさしい、患者さんへの負担（侵襲といいます）を少しでも減らすための心臓血管手術のことを低侵襲心臓外科手術（Minimally Invasive Cardiac Surgery）と言い、これらの頭文字をとって MICS と呼びます。

なんといっても、傷が小さく痛みが少ないことが特徴で（図）、早期退院、早期社会復帰が可能となります。国循では積極的に MICS を取り入れており、特に弁膜症の手術では適応が広がりつつあります。「心臓の手術が必要って言われたけど、わたしも、MICS って受けられるのかな?」とお悩みの方はぜひ主治医にご相談ください。



図 MICSで僧帽弁形成術を受けた患者さんの1か月後の傷

## ミックス手術

ミックス手術は、胸骨やろっ骨を切ることなく、ろっ骨を上下に広げるようにしてすき間をつくり、そのすき間から、心臓手術するのが特長で、右のろっ骨のあいだを約7cm切開して行います。この手術に必要な人工心臓装置は足の付け根のところの大腿動静脈に接続します。

この方法のメリットは①出血が少ない、②胸骨を切らないので縦隔炎になりにくい、③回復が早く早期退院、早期社会復帰ができる、④傷が見えにくく、美容上優れている、などがあります。

ただし難点（デメリット）もあります。手術する医師の視野（見える範囲）が限られるので、①慣れていないと難しい、②リスクの高い患者さんには向かない、などがあります。ですから、この方法で手術をする場合は、患者さんとよく話しあううえで選択します。

国立循環器病研究センターでは 2011 年の夏ごろから本格的にミックス手術を開始し、慎重に適応を考えながら 150 例を超える患者さんに行い、良好な成績を得ています。

この手術は比較的若い世代で活動性の高い患者さんに向いているといえます。



患者さんへの負担を減らし、より安全でよりよい結果を生む治療を目指しています。

MICSって知ってますか？

心臓外科部長 藤田知之

減塩食のレシピ 一品料理レシピ

アスパラとじゃが芋の  
カレー粉炒め

カレー粉などの香辛料は  
塩分調節の強い味方です!



使用材料 (2人分)

じゃが芋	80g	《調味料》	
アスパラ	40g	カレールー	2g
パプリカ (赤・黄)	10g	カレー粉	1g
		コンソメ	0.4g
		塩	0.4g
		塩	少々
		こしょう	2cc
		オリーブオイル	



作り方

作り方・切り方

- ①じゃが芋は5cmくらいのくし形に切り、キッチンペーパー等で水気をよくふいてから170～180℃位の油で素揚げにしておく。
- ②アスパラは斜めに5mmくらいの幅、5cmくらいの長さに切り、熱湯で固さを残して湯がいておく。
- ③パプリカ(赤・黄)は少し大きめに乱切りし、熱湯でさっと湯がいておく。

仕上げ・盛り付け

- ①フライパンに油を入れてパプリカを入れて炒め取り出しておく。フライパンに油を足して、じゃがいも・アスパラをしばらく炒め、カレー粉・コンソメ・塩・こしょうを入れて味を付け、最後にパプリカを加える。
- ②器に形よく盛りつける。



連携医紹介 ②④

医療法人 衣川医院

国立循環器病センターを辞して、豊中の閑静な住宅地に開業して15年以上になります。

一般内科、循環器、神経内科を標榜し、近隣住民の方の健康管理をお手伝いしています。

当初は一般内科的な診療に戸惑いましたが、各科専門医の助言を参考に、かかりつけ医として日々診療を続けています。

現在では、標榜診療科のためか、患者さんの大半が、高血圧症を始め循環器病に関連する疾病を有する方々です。従って、国立循環器病研究センターへ診療をお願いすることも多く心臓血管内科をはじめ各科の先生方には大変お世話になっています。

今後も国立循環器病研究センターをはじめ各病院の専門医の助言をいただきながら診療をしていきたいと思っています。



院長 衣川 秀一 先生

【診療科目】 内科・循環器科・神経内科  
〒561-0864 豊中市夕日丘 1-3-12 TEL/FAX: 06-4865-1200  
【アクセス】

地下鉄桃山台駅から阪急バス(豊中駅行き)「旭丘」下車徒歩3分、地下鉄豊中駅から阪急バス(桃山台駅行き)「旭丘」下車徒歩3分、阪急電車「岡町駅」から徒歩15分

【駐車場】 7台

【診療時間】

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ~ 12:30	○	○	○	/	○	○	○
午後 3:00 ~ 7:00	○	○	○	/	○	/	/

【休診日】 土曜日・日曜日午後、木曜日、祝日

海外から希望を求めて：メディカルツーリズムの夜明け  
— 肺高血圧症に対する肺動脈バルーン拡張術 —

心臓血管内科部門 肺循環科 医長 大郷 剛

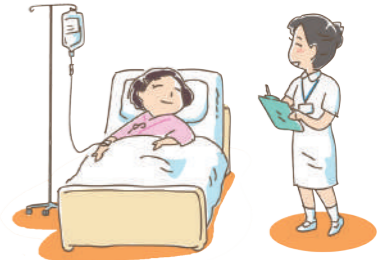
自国では不可能な医療等を求めて外国に渡航して治療や診断を受けることを「メディカルツーリズム」と呼びます。海外からの日本への治療はまだこれからの状況です。

2016年11月、米国での講演中に韓国在住で36歳の女性からメールが届きました。「慢性血栓塞栓性肺高血圧症と診断され治療がないと言われていました。息苦しく生活もできなくなり困っています。国立循環器病研究センターで最新のカテーテル治療が受けられると聞き連絡をしました。もし治るのならこちらで治療を受けたいと思います」。郵送された画像から肺動脈バルーン拡張術(BPA)が有効と考えられました。送られてきた検査データから最重症であり、放置すれば

余命は一年以内と判断されました。すぐに来日して頂き、検査の上で約一か月間入院の間計5回のBPAを行い、肺動脈圧は正常化し、日常生活は問題ない程度まで改善しました。

近年は世界中の多くの専門施設で肺動脈カテーテル治療の指導を行っています。海外での治療技術は大きく遅れ、日本が世界をリードしています。どんな国でも患者さんは同じで、助けを求めています。

今後も海外から国立循環器病研究センターでの肺動脈バルーン治療による救命、根治を求めて連絡があれば可能な限り対応していきたいと思っています。



閉塞性動脈硬化症に対するアジアの先生との連携

血管科 医長 河原田 修身

閉塞性動脈硬化症は、足の動脈が詰まり、歩行に必要な栄養や酸素が届かなくなるため、歩くと痛みが生じる病気です。食生活の欧米化などで、国内の患者は高齢者を中心に100万人以上と推定され、年々増加傾向にあります。糖尿病や腎不全の患者は特に重症化しやすく、足先に壊死(えし)や潰瘍を伴い、切断に至ることもあります。最近ではアジア各国で患者数が増加し、アジアは世界の患者数の半数を占めています。



そのような状況の中、日本で確立されてきた高いカテーテル治療技術や、複数の専門医が参加して治療するチーム医療のモデルをアジアで広めていきたいとの思いから、毎年、国内とアジアの医師を招いた研究会を関西で行っています。

7回目となる今回は昨年12月3日に大阪で開かれました。「Endovascular Asia」という会の名のとおり、日本のほか、アジア各国、韓国、台湾、香港、インドから循環器内科、血管外科、放射線科、形成外科、整形外科などの専門医が17名参加し活発な意見交換を行いました。それぞれの国の状況は違えど、同じ思いで医療に向かう仲間がアジアにいることを実感しながら、日常診療にそそぐ情熱も一層熱く燃やしています。



国循のレシピ本「かるしおシリーズ」新刊が発売になりました!



認知症リスク減! /

続々 国循のかるしおレシピ

国循の病院食は、塩を軽く使って食材の持ち味を引き出すことで、1食塩分2g未満でもしっかりした味で美味しいと好評です。循環器病予防のための減塩の啓発を目的として、国循はこの病院食を紹介したレシピ本を2012年から計5冊出版・監修しました。

そしてこのたび、6冊目となる「認知症リスク減! 続々国循のかるしおレシピ」を2017年3月1日に発行しました。認知症はわが国の要介護原因の第2位ですが、高齢化の進展と特効薬がないことから、第1位の脳卒中との差は縮まる傾向にあります。超高齢社会を迎えたわが国では、今後認知症患者の爆発的増加が懸念されています。

近年、世界で心血管リスクの管理が認知症予防に有効であるとの報告が相次ぎました。循環器病の治療・予防食である「かるしおレシピ」は認知症予防にも有効と考えられます。

また、本書のレシピは全て、2015年に発表された認知症予防効果のある食事法「マインド食」の推奨食材を豊富に用いた新作レシピです。日本人にはなじみの薄い食材も、国循の調理師と管理栄養士が工夫して作りやすく食べやすくアレンジしました。本書に加えて禁煙や適度な運動なども取り入れ、美味しく楽しく認知症予防に取り組んでいただけると幸いです。

交通アクセス

鉄道利用の場合

地下鉄御堂筋線・北大阪急行線千里中央駅から

- 阪急バス5番乗場（一部6番乗場）「循環器病センター前」下車（15分）
- タクシー（3.4 km, 10分）

阪急電鉄千里線北千里駅から

- 阪急バス5番乗場 「循環器病センター前」下車（5分）
- タクシー（1.3 km, 3分）
- 徒歩（15分）

東海道線・新幹線新大阪駅から

- 地下鉄御堂筋線千里中央行 千里中央駅下車（18分）

※阪急バスをご利用の方は急行など一部当センター前に停車しない便がありますので、乗車前に十分ご確認ください。

航空機利用の場合

大阪国際空港（伊丹）から

- 大阪モノレール 千里中央駅下車（12分）  
千里中央にて阪急バスに乗り換え 阪急バス5番乗場（一部6番乗場）「循環器病センター前」下車（15分）
- タクシー（20分）

※阪急バスをご利用の方は急行など一部当センター前に停車しない便がありますので、乗車前に十分ご確認ください。

自動車利用の場合

名神高速道路沿線から

- 吹田ICより約10分
- 茨木ICより国道171号線今宮を経て約20分

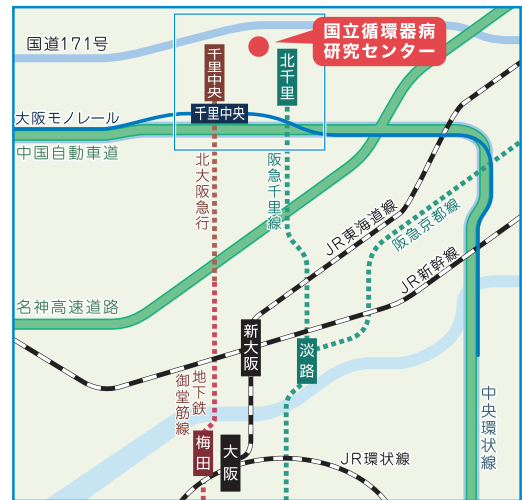
近畿自動車道沿線から

- 吹田ICより約10分

中国自動車道沿線から

- 中国池田ICより中央環状線千里中央を経て約20分

※無料直行バスは、2015年12月28日をもって廃止いたしました。



※次号は7月発行予定です。

【お問い合わせ】

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5丁目7番1号  
国立循環器病研究センター総務課広報係 TEL: 06-6833-5012 (代) <http://www.ncvc.go.jp>

